

交換留学報告書

派遣先	
三重大学での所属学部・研究科	人文学部 文化学科
学年(出発時)	4年
大学名	雲南大学
国	中国
留学期間	2019年8月23日～2020年1月20日
派遣先での身分	留学生

一日の生活スケジュール(通学時)		
	記入欄	記入例
8:00		
9:00	授業	授業
10:00		授業
11:00	昼食	図書館で自習
12:00		昼食
13:00		
14:00	自室にて自習	授業
15:00		授業
16:00		
17:00	夕食	
18:00		部活
19:00		夕食
20:00	自由時間	友人と過ごす
21:00		帰宅
22:00		
23:00		
0:00	消灯	

履修科目				
科目名	時間数/週	履修単位	使用言語	授業内容(レポート、試験、授業形態等)
総合	10		中国語/英語	教科書に沿って単語や文法の授業。教科書の例文の解説、練習問題などがメイン。新出の単語や文法を用いた例文の作成が宿題として課されます。テストは主に文法を問うもの。
口語	4		中国語/英語	中国語会話の授業。教科書の例文、単語の解説に加え、例文のシチュエーションに沿ったロールプレイが毎時間あります。教科書の内容を暗記するよりも自然な会話を展開することに重きを置いているためアドリブ可です。テストは単語の発音、口頭での質問への返答、ペアとのロールプレイです。記述無し。
リスニング	4		中国語/英語	問題集の問題を全体で解き進め、問題ごとに先生が開設を加えてくださいます。テストはすべて問題集からの引用。

大学のサポート	
チューターの有無	無
チューターのサポート内容	
語学コースの有無	有
コース名、料金、期間等	HSK5輔導 無料 学期中毎週土曜

生活	
住居のタイプ	留学生寮
住居の名前	国際学院
部屋タイプ	4人もしくは2人一部屋
ルームメイト(国籍)	カンボジア
室内設備	机、衣装棚、ベッド
共用施設	トイレ、シャワー、洗面所、洗濯機、給湯器
インターネット設備	キャンパス内Wi-Fi有
大学までの交通手段(交通機関、所要時間)	徒歩2分(キャンパス内)
アルバイトの有無	無
アルバイトの内容	

渡航	
Visaの種類	留学ビザ(X2)
Visa申請先	中国ビザ申請センター名古屋支店(発行元は東京)
Visa取得にかかった日数	一週間(6営業日)
Visa取得にかかった費用	8400円
Visa取得方法、提出書類等	<ul style="list-style-type: none"> ・パスポートのコピー及び原本 ・発効後6か月以内の証明写真 ・受け入れ許可証 ・中国査証申請用紙
留学先大学の最寄り空港までの経路	タクシー: 40分～50分程度 地下鉄: 1時間半程度
渡航費用	42925円
ピックアップサービスの有無	有

帰国後	
留年や卒業の遅れの有無	有
有る場合、その理由	卒業研究、教育実習のため
就職活動開始時期	2020年2月
帰国後の進路	就職

留学にかかった費用	
現地通貨＝日本円(約)	人民元 1元＝約15円
保険料(海外旅行保険、国民健康保険等)	8万円程度
学費(教科書代や語学コース授業料等)	教科書代: 3千円程度 授業料: 5千元程度(交換留学生は不徴収)
宿舍費(月額)	450元程度
光熱費(月額)	無
食費(月額)	400～500元程度
その他	現地大学の保険料800元、交友費300元、観光費3000元、携帯用SIM7500円(日本にて購入)、雑費100元/月
留学期間中にかかった費用の合計	40～50万円程度

感想等(※800字以上で語学勉強の成果についての内容も含め、ご記入ください。)

雲南に留学してよかったのは、雲南の気候が快適だったことと、日本人が極めて少ないという点です。私が渡航したのは8月23日で、日本では夏真っ盛りの時期だったのですが、雲南は適度に涼しく、その快適さに驚いた覚えがあります。8月でも常に気温は30度を下回っていたため、外にいてもほとんど汗をかきませんでした。反して雲南の冬は非常に温暖で、日差しがあればおよそ15℃から20℃ほどの気温です。私は結局薄手の秋用ジャケットとパーカーを買い足したのみで過ごし切りました。ただ、標高が高いため、空気は常に乾燥しています。その為、日中と夜間の寒暖差が激しいです。また、曇ったり、雨が降ったりすると一気に気温が下がります。加えて、宿舎の部屋はもちろん教室にも暖房機器はないので、一時的に気温が下がった時期はかなり辛かったです。こうした難点はいくつかありましたが、総合的に見ると雲南の気候は日本に比べて過ごしやすかったです。服を買い足す必要がないので現地で荷物が増えないという点でも、ありがたかったです。

雲南大学には留学生、本科生、大学院生を含め数百人単位の留学生がいますが私が、留学していた当時日本人は自身を含めわずか三人でした。学習機会の増加という意味でこのことは非常に強い利点でした。また、現在は別のキャンパスですが、雲南大学には日本語学科も存在し、日本語を学びたいという学生は少なからずいます。留学の失敗談でよく聞く、日本人留学生とばかり交流し、思ったような学習成果が得られなかったということは無かったです。その点について、上海や北京よりも学習しやすい、交流しやすい環境であると言えます。

こうした環境のなか、私の中国語は留学が終わることにはかなり上達しました。渡航当時は「はい/いいえ」の返答すら怪しかった私ですが、半年が過ぎ、留学が終わる頃には、日常会話はこなせるようになりました。外国人だとわかってもらったうえでなら問題なく会話ができます。現地の中国人に中国語も褒められることも何度かありました。

少しばかり残念だったのは、大学での授業が多くなかったこと、学務の窓口の対応があまり良くなかったことです。

先述のスケジュールと履修科目からわかるかもしれませんが、大学の授業は午前中で終わり、あとは自由時間となります。留学中みっちり集中して学習するつもりだった自分にとって、この授業数ははっきり言って拍子抜けでした。幸い、講師とクラスメイトに恵まれ、授業そのものには特に不満はありませんでしたが、欲を言えば、午後にもしっかり授業があつてほしかったなと思います。

数百人単位で在籍する留学生に対し、大学側は数人でこの対応にあたっています。渡航前からその対応の遅さには閉口させられましたし、到着直後の登録作業ではかなりの長時間列に並ぶことになりました。また、通知が遅かったり、そもそも聞きにいかねば通知してくれなかったり、言ってることが時期、人によって違ったりと、いろいろ問題がありました。

幸い大ごとになることはありませんでしたが、不安だったのは事実です。

今後留学する人へのアドバイス

中国人の方と交流したことがない方の中には、日本に来る中国人観光客の印象から、中国人にあまりいいイメージがない人もいるかもしれませんが、決してそんなことはありません。こちらから歩み寄れば、優しく、フレンドリーな人ばかりですし、外国人だと知れば力にもなってくれることでしょう。学習の成果を活かしてコミュニケーションを図ってみてください。雲南大学は日本語学科もあり、それ以外にも日本語を学びたいという方はいるので、現地の日本語話者の需要は私たちが思うより高いです。さらに、現地の日本語講師の方たちによる日中交流会も存在するので友好の輪を広げるにはもってこいの環境です。学校の授業数が少ないというのは、裏を返せば自由な時間が多いということにもなります。築いた親交を頼って、外に出るのもいいですし、自習の時間をしっかりとることも可能です。雲南大学に留学するという方は、是非自習用の教材もしっかり充実させて臨んでください。先生は授業以外でも質問には答えてくださいますので、存分に頼ってください。

報告書記入日

2020年2月1日